

【研究論文】

大学生の絵本に関する調査研究の一考察

— 就学前から中学生までの絵本体験 —

古川 元 視

【要旨】

本研究は、将来保育者や教育者志望の短期大学部初等教育科第1学年及び第2学年合計117名を対象に就学前から中学校までの絵本体験の調査を実施し、その結果を分析・考察したものである。短期大学生は、絵本の魅力を感じており、好きな絵本も意識しているが、以下のような課題が多く見られた。第一に、成長過程から見ると、保育園・幼稚園期には、家族から薦められた絵本が少ない。絵本を小学校中学年以降読まなくなっている。小学校期や中学校期では多様な読書活動を行っていない。第二に、読書傾向から見ると、絵本作家やシリーズにこだわって読んだ経験が少なく、絵本のジャンルに偏りがある。実際に、「絵本の必読書100選」を手がかりに実態調査をすると、それらの絵本を読んでいる。特に課題となるのは、図鑑や科学読み物等の読書経験が少ないことである。

保育者や教育者志望の短期大学生に対して、多様なジャンルの絵本を読み、同時に多様な読書活動を経験することを求める必要がある。多様なジャンルの絵本を紹介したり、目的を持った読み方として多様な読み方（作者にこだわって読む、シリーズにこだわって読む、作家にこだわって読むなど）を経験したりするなどによって、絵本の魅力を伝えていく重要性に気付かせるようにしたい。

1 はじめに

(1) 絵本の魅力

絵本には、文学一般や物語集とは違った魅力と特性があることは広く認められている。柳田¹⁾は、絵本の魅力を年齢や世代を超えて共有できるもので、洗練された簡潔な文章と絵と肉声の共振によって、物語の世界が立体感をもって創り出されると述べている。また、瀬田²⁾は、絵本は子どもたちを静かなところにさそいこんで、ゆっくりと深々と、楽しくおもしろく美しく、いくども聞きたくなくなるようなすばらしい語り手であると提案している。絵本は、子どもを楽しませ、なおかつ創造的世界に導き、読解力・読書力を養う魅力ある本であることがわかる。

(2) 国の絵本に関する読書活動の推進

国においても、絵本指導の意義に基づき推進することを求めている。現行の『保育所保育指針³⁾』、『幼稚園教育要領⁴⁾』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領⁵⁾』の「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」中にも「絵本や物語などに親しみな

がら」という記述がある。また、『小学校学習指導要領⁶⁾』総則、『小学校学習指導要領解説国語編⁷⁾』など様々なところで確認できる。

(3) 就学前から中学生までの読書の課題

以上のような魅力と推進の必要性が求められながら、就学前から中学生までの読書活動に関しては多くの課題があることも広く知られている。

① 学校読書調査⁸⁾が示した課題

○ 1か月の平均読書冊数は、小学生は11.3冊、中学生は4.7冊である。小学生は、毎年11冊程度で推移している。中学生も、毎年5冊程度である。調査対象の短期大学生が小学校高学年の頃を見ると、1か月の平均読書冊数は10冊、中学校の頃を見ると、3.9冊である。

○ 不読者（5月1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の調査）の割合は、小学生は6.8%、中学生は12.5%である。小学生は若干増えており、中学生は若干少なくなっている。同様に、短期大学生が小学校期では6.2%、中学校期では15%の不読の割合となっている。

② 子ども読書活動に関するアンケート調査⁹⁾ 結果が示す課題

○ 子どもが本を読むことや本に興味を持つことが、子どもの成長に必要なことであると回答した4歳児の保護者は、96.9%と大多数を占めている。しかし、3日以上本を読んであげた保護者は、6割である。「家事が忙しいから」「仕事が忙しいから」という理由が多い。

○ 子どもの本は、「保育所・幼稚園で借りる」が86.1%と一番多い。子どもや保護者にとって保育所・幼稚園が本と出会える場所になっていることがわかる。

③ 中央教育審議会答申¹⁰⁾が示した課題

○ 読書活動についても、受け身の読書体験にとどまっており、著者の考えや情報を読み解きながら自分の考えを形成していくという能動的な読書になっていない。

今要約して示した課題について、総合的に整理すると、次のようになる。

【読書力の課題】読書量が少なく、受け身の読書体験にとどまっている。情報を主体的に読み解き、考えの形成に生かすインターラクティブ・リーディングが必要である。

【保護者や保育者の課題】保護者は、子どもにとって読書が大切であるという認識はあるものの、家事や仕事の忙しさからという理由で十分な環境を整えることができていない。また、保育所・幼稚園という一番身近な場所が子供の読書では重要な役割を担っているという認識が保育者に求められている。

これらの課題に応えるためにどうしたらよいかと思われる提案も、既にある。出村¹¹⁾は、子供時代の絵本体験には、絵本が身近にあったこと、大人の読み手が存在していたことが重要であると述べている。佐野¹²⁾は、保育者志望の学生にとって、絵本は積極的に学びたい対象であり、幼少期の絵本体験が、現在の絵本の読み聞かせの技術や知識に関する自身の有無に影響していることを挙げている。また、本を読むことが好きだと感じられる大人を育てるためには幼少期の絵本体験が重要であることも報告している。

2 調査の目的

本研究では、将来保育者や教育者志望の短期大学生を対象として、次のようなことについて調査・研究を行うことにした。

(1) 保育園・幼稚園～小学校～中学校までの絵本体験について実態調査を行い、現状と課題を把握する。

(2) 保育園・幼稚園時代、小学校時代、中学校時代に特化して、絵本体験についての実態調査を行い、現状と課題を把握する。

(3) 本学認定絵本士^{*1)}準備委員会が独自に選定した「絵本の必読書100選」について、読んだ経験について調査し、実態と課題を把握する。

3 調査の方法

(1) 調査の対象

別府大学短期大学部初等教育科
第1学年及び第2年生 合計117名

(2) 調査問題の実際

調査問題は、5ページのアンケート形式で行い、時間は30分でペーパー及びmoodle^{*2)}での回答とした。以下のようなアンケートを作成した。

I 保育園・幼稚園～小学校～中学校まで通してのアンケート

1 絵本は、好きですか。
ア 好き イ まあまあ好き ウ どちらかと言えば嫌い エ 嫌い

2 絵本のおもしろさとは、どんなところですか。
(複数回答可)

ア 絵の美しさや面白さなど イ 絵と文章がぴったり合っている ウ 時間をかけなくて読める エ イメージが広がる オ 主人公や登場人物の魅力 カ その他 ()

3-① 一番好きな絵本は、ありますか。

ア ある イ ない

3-② 「ア ある」と答えた方は、その絵本は何ですか。()

3-③ それは、なぜですか。(複数回答可)

ア 絵の美しさや面白さなど イ 文章の面白さやたくみさなど ウ 主人公や登場人物の魅力 エ その他 ()

4-① 何回も繰り返して読んだ絵本は、ありますか。

ア ある イ ない

4-② 「ア ある」と答えた方は、その絵本は何ですか。()

4-③ それは、なぜですか。(複数回答可)

ア 絵の美しさや面白さなど イ 文章の面白さやたくみさなど ウ 主人公や登場人物の魅力 エ その他 ()

- 5-① 好きな絵本作家はいますか。
ア いる イ いない
- 5-② 「ア いる」と答えた方は、好きな作家はだれですか。()
- 6-① 好きなシリーズはありますか。
ア ある イ ない
- 6-② 「ア ある」と答えた方は、何というシリーズですか。()
- 7 一番絵本を読んでいたのは、いつ頃ですか。
ア 保育園～幼稚園頃 イ 小学校1～3年生頃
ウ 小学校4～6年生頃 エ 中学校
- 8-① 絵本をいつごろから読まなくなりましたか。
ア 保育園～幼稚園頃 イ 小学校1～3年生頃
ウ 小学校4～6年生頃 エ 中学校
- 8-② 絵本を読まなくなったのは、なぜですか。(複数回答可)
ア 読む時間がない イ 絵本は簡単すぎる
ウ 興味がなくなった エ その他()
- 9 次の絵本を読んだことがありますか。(複数回答可)
ア 物語絵本 イ 昔話絵本 ウ 知識絵本
エ 科学絵本 オ あいうえお絵本 カ ものがたくさん紹介されている絵本
キ しつけのための絵本 ク 絵だけの絵本 ケ しかけ絵本
コ 大型絵本 サ 小型絵本 シ 写真絵本
ス 布絵本 セ 音がなる絵本
- II 保育園・幼稚園期についてのアンケート
- 1-① 家族から薦められた絵本は、ありますか。
ア ある イ ない
- 1-② 「ア ある」と答えた方は、その本は、何ですか。()
- 2 絵本の読み聞かせをだれがしてくれましたか。(複数回答可)
ア 親 イ 兄弟 ウ 祖父母 エ 先生
オ 地域の人たち カ その他()
- III 小学校期についてのアンケート
- 1 授業中に、絵本を使って次のような読書活動をしたことがありますか。(複数回答可)
ア 読み聞かせ イ ブックトーク ウ ポップ作り
エ 帯作り オ 読書感想文 カ 紙芝居作り
キ 音読劇などの劇 ク その他()
- IV 中学校期についてのアンケート
- 1 授業中に、絵本を使って次のような読書活動をしたことがありますか。(複数回答可)
ア 読み聞かせ イ ブックトーク ウ ポップ作り
エ 帯作り オ 読書感想文 カ 紙芝居作り
キ 音読劇などの劇 ク その他()
- V 「絵本の必読書100選」についてのアンケート
- 1 別紙「絵本の必読書100選」の中で、読んだことがある絵本にチェックを入れてください。
- 2 「絵本の必読書100選」の中で、何冊読んだことがありますか。() 冊)

(3) 調査の手順

30分間でペーパー及びmoodleで回答をする。

(4) 調査の内容

調査については、発達時期に合わせて、5つに分けたアンケートにする。

- ① 保育園、幼稚園～小学校～中学校まで通したアンケート
 - ② 保育園・幼稚園期についてのアンケート
 - ③ 小学校期についてのアンケート
 - ④ 中学校期についてのアンケート
 - ⑤ 「絵本の必読書100選」についてのアンケート
- 「絵本の必読書100選」については、100冊の絵本のリストにチェックする。
- (5) 調査の時期 令和2年7月

4 絵本との関わりについての調査・研究アンケートの結果と考察

4.1 保育園・幼稚園～小学校～中学校まで通してのアンケートの結果と考察

1 問題1・2の趣旨及び結果と考察

絵本の好き嫌い及び絵本のおもしろさについて問うた問題である。

表1 絵本の好き嫌い

	割合 (%)
好き	60
まあまあ好き	38
どちらかと言えば嫌い	2
嫌い	0

佐野¹³⁾の調査によると、「現在、絵本を読むことが好きだ」という大学生は90%にも及んでいる。これは、短期大学生にも同様な傾向である。保育園・幼稚園～中学校まで通して、絵本が「好き」「まあまあ好き」という短期大学生は、表1のとおり98%にも上った。絵本のおもしろさについては次の表2のとおりである。

中山¹⁴⁾の「好きな絵本の何が印象に残っているか」の結果では、「ストーリー」「絵の美しさ」「文の表現力」という順位である。短期大学生も同様に、「絵の美しさや面白さ」、「イメージの広がり」が多かった。「時間をかけないで読める」というものは意外に27%と少なかった。絵本の魅力を十分に味わっているからこそ、絵本が好きであると思っている。

表2 絵本のおもしろさ

理由	割合 (%)
絵の美しさや面白さ	76
絵と文章がぴったり合っている	19
時間をかけなくて読める	27
イメージが広がる	64
主人公や登場人物の魅力	39
その他	2

2 問題3の趣旨及び結果と考察

保育園・幼稚園～中学校までにどのような絵本が一番好きだったのかを問うた問題である。

表3 好きな絵本の有無

	割合 (%)
ある	73
ない	27

「好きな絵本はある」と答えた短期大学生は、表3のとおり73%である。思ったより少なかった。短期大学生から挙がったのは、56種類の絵本で、上位4位は、次の表4のようになる。

表4 好きな絵本

順位	本の名前	人数
1	ぐりとぐら	14
2	はらぺこあおむし	9
3	バムとケロ	8
4	スイミー	5

これは、「ミリオンぶっく」*³⁾に掲載されている絵本であり、累計発行部数100万冊を超えている絵本である。「ない」と答えた者は、27%もいる。繰り返し読んだり、シリーズや作家などにこだわった読み方をしたりしていないのではないかと考えられる。

表5 好きな絵本の理由

理由	割合 (%)
絵の美しさや面白さ	39
文章の面白さやたくみさ	32
主人公や登場人物の魅力	35
その他	8

一番好きな絵本の理由としては、表5のとおり、「絵の美しさや面白さ」「主人公や登場人物

の魅力」「文章の面白さや巧みさ」という項目は、ほとんど変わらなかった。絵だけではなく、文章や主人公、登場人物の魅力まで味わっている。

3 問題4の趣旨及び結果と考察

お気に入りの絵本があると繰り返し読んでみたくなるものである。繰り返し読んだ絵本の有無について問うた問題である。

表6 繰り返し読んだ絵本の有無

	割合 (%)
ある	71
ない	29

繰り返し読んだ絵本があると答えた短期大学生は、表6のとおり71%である。中学生までにお気に入りの絵本ができたのだろう。では、具体的にどのような絵本なのかは次の表7のとおりである。

表7 繰り返し読んだ絵本

順位	本の名前	人数
1	ぐりとぐら	16
2	はらぺこあおむし	11
3	バムとケロ	8
4	ノンタン	3

短期大学生から挙がったのは55種類の絵本であったが、上位3冊は、表4の「好きな絵本」と同様であった。繰り返し読んだ理由については、次の表8のとおりである。繰り返し読んだ本は、絵本独自の魅力である絵に惹かれていることがわかる。

表8 繰り返し読んだ理由

理由	割合 (%)
絵の美しさや面白さ	41
文章の面白さやたくみさ	28
主人公や登場人物の魅力	37
その他	7

4 問題5の趣旨と結果と考察

有名な絵本作家は数多くいる。その中で、好きな絵本作家について問うた問題である。

表9 好きな絵本作家の有無

	割合 (%)
いる	9
いない	91

表9のとおり、好きな絵本作家がいるのは、予想を反してわずか9%であった。好きな絵本作家に出会わなかったのか、好きな絵本作家にこだわった読み方をしなかったのかだろう。周りの保護者、保育者、教育者が好きな絵本作家の本を薦めなかったということも考えられる。

では、好きな絵本作家はだれかという、6人が挙がり、一番多かったのはヨシタケシンスケさんであった。ヨシタケシンスケさんは、比較的この頃の作家である。したがって、短期大学生が就学前～中学生の時期には、あまりいなかったということである。

5 問題6の趣旨と結果と考察

絵本の中には、シリーズものが数多くある。好きなシリーズについて問うた問題である。

表10 好きなシリーズ絵本の有無

	割合 (%)
ある	47
ない	53

表10のとおり、「好きなシリーズがある」と答えた短期大学生は、半数にも満たなく47%であった。好きな絵本に出会い、それがシリーズであると、読破したくなるものである。シリーズ読みという読み方を周りの保護者、保育者や教育者が紹介してこなかったのかもしれない。では、具体的には、どのようなシリーズなのかについては次の表11のとおりである。

表11 好きなシリーズ

順位	シリーズの名前	人数
1	ぐりとぐら	22
2	バムとケロ	10
3	ノントン	5
4	ねずみくん	4

短期大学生が挙げたのは、19種類の本であった。上位3位までに挙げたのは、表4や表7とほとんど重なる。シリーズとしての魅力が溢

れている絵本である。

6 問題7・8の趣旨と結果と考察

一番絵本を読んでいた時期について問うた問題である。

表12 一番絵本を読んでいた時期

時期	割合 (%)
保育園～幼稚園	68
小学校1～3年生頃	25
小学校4～6年生頃	5
中学校	2

表12のとおり、一番絵本を読んでいた時期は、やはり保育園～幼稚園の頃であり、年齢が上がるにつれて少くなっている、小学校低学年のころになると保育園～幼稚園期と比べ3分の1程度まで少なくなっている。では、絵本を読まなくなった時期も問うた。

表13 絵本を読まなくなった時期

時期	割合 (%)
保育園～幼稚園	1
小学校1～3年生頃	22
小学校4～6年生頃	56
中学校	21

表13のとおり、圧倒的に小学校4～6年生頃である。つまり、保育園～小学校1～3年生までは、絵本を読んでいるが、小学校4年生頃から絵本離れが顕著になってくる。では、なぜ、絵本を読まなくなったのかと言うと次の表14のとおりである。

表14 絵本を読まなくなった理由

理由	割合 (%)
読む時間がない	30
絵本は簡単すぎる	28
興味がなくなった	49
その他	9

一番多かったのは、「興味がなくなったから」の49%であった。意外に、「絵本は簡単すぎる」や「読む時間がない」は少なかった。その他では、「小説に替えたから」「文字だけの本に興味を持ち始めたから」などが挙げられた。絵本は子どもだけが読むものではない。それぞれの時期に読

むことで感じ方が変わってくる。何より読む年齢は決まっていないということを周りの保育者や教育者が伝えることが必要である。

7 問題9の趣旨と結果と考察

絵本には、いろいろなジャンルがある。どのジャンルの絵本を読んだことがあるのかを問うた問題である。

表15のとおり、多かった順に挙げると、昔話絵本91%，物語絵本88%，しかけ絵本82%，大型絵本64%，音がる絵本62%であった。とても少なかったのは科学絵本24%であった。やはり、昔話絵本や物語絵本が主流を占めており、多様なジャンルを満遍なくというようにはなっていない。これは、子どもの周りにいる保育者や教育者が多様なジャンルに興味をもつような働きかけをしていないと考えられる。また、そのような環境も作っていないのではないか。

4.2 保育園・幼稚園期についてのアンケートの結果と考察

1 問題1の問題の趣旨と結果と考察

就学前は、絵本に関して、家族や保育者・教育者からの働きかけが大きく関係する。そこで、家族から薦められた絵本があるのかを問うた。

表15 読んだことがある絵本のジャンル

ジャンル	割合 (%)
物語絵本	88
昔話絵本	91
知識絵本	37
科学絵本	24
あいうえお絵本	34
ものがたくさん絵本	44
しつけのための絵本	25
絵だけの絵本	46
しかけ絵本	82
大型絵本	65
小型絵本	46
写真絵本	40
布絵本	31
音がる絵本	62

表16 家族から薦められた絵本の有無

	割合 (%)
ある	17
ない	83

表17 絵本の読み聞かせをしてくれた人

人	割合 (%)
親	80
兄弟	9
祖父母	20
先生	65
地域の人たち	33
その他	4

表16のとおり、家族から薦められた絵本があるのは、わずか17%であった。読書環境というのは、保護者や保育者・教育者が意図的に作る事が重要である。それが、これからの読書経験に繋がっていく。家族から薦められた絵本は、18種類であり、「ぐりとぐら」「バムとケロ」「おしいれのぼうけん」「かいじゅうたちのいるところ」などが挙げられた。

2 問題2の問題の趣旨と結果と考察

絵本の読み聞かせについて問うた問題である。表17のとおり、親や先生が圧倒的に多い。親や教師は、読書環境作りに重要な鍵である。

4.3 小学校期についてのアンケートの結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

平成20年度版の学習指導要領国語編¹⁵⁾では、言語活動の充実が叫ばれ、読書活動も推進された。短期大学生の小学校期の読書活動を尋ねてみた。

表18 小学校期の読書活動

読書活動	割合 (%)
読み聞かせ	69
ブックトーク	11
ポップ作り	15
帯作り	16
読書感想文	71
紙芝居作り	23
音読劇などの劇	33
その他	4

表18のとおり、従来から実施されてきた「読書感想文」や「読み聞かせ」は多いものの、「ポップ作り」、「帯作り」、「ブックトーク」などの紹介活動、「紙芝居作り」、「音読劇などの劇」などの表現活動はあまり実施されていなかった。小学校期には、読書活動があまり行われていなかったことがうかがえる。

4.4 中学校期についてのアンケートの結果と考察

1 問題1の趣旨と結果と考察

同様に中学校期の読書活動について問うた問題である。

表19 中学校期での読書活動

読書活動	割合 (%)
読み聞かせ	39
ブックトーク	12
ポップ作り	14
帯作り	13
読書感想文	61
紙芝居作り	13
音読劇などの劇	9
その他	9

表19のとおり、やはり小学校時代と同様に、「読書感想文」「読み聞かせ」が圧倒的に多かった。他の読書活動は、あまり行われていない。

4.5 「絵本の必読書100選」についてのアンケートの結果と考察

1 問題1の趣旨と結果と考察

「絵本の必読書100選」の絵本をどのくらい読んだのかを問うた問題である。

表20 「絵本の必読書100選」の読書の割合

割合%	冊数	冊数
80～	2	
70～79	3	
60～69	4	15
50～59	6	
～10	60	60

表20のとおり、短期大学生の8割以上が読んだことがある絵本は、わずか2冊であった。ま

た、1割以下の短期大学生しか読んだことがない絵本は60冊にも上った。短期大学生が最も読んだ本の1位「おおきなかぶ」、2位「ぐりとぐら」、3位「はらぺこあおむし」、4位「スイミー」、5位「さんびきのこぶた」の順であった。読んだ短期大学生が一人もいなかった絵本は「はじめてあうすうがくの本」、一人しか読んだことがない絵本は「トマトのひみつ」、「八郎」、「もりのへなそうる」、「にほんのわらべうた①うめとさくら」であった。上位に位置する絵本は、物語系絵本で、下位に位置するのは、科学読み物系、童歌系、算数系の絵本であった。表15と同様に、多様なジャンルの絵本を読む必要がある。特に、保護者や保育者、教育者は、多様なジャンルの絵本を用意し、それを子どもに意図的に触れさせる環境を作ったり、読書活動を行わせたりする必要がある。

2 問題2の趣旨と結果と考察

「絵本の必読書100選」でどのくらいの冊数を読んだことがあるのかを問うた。

表21 「絵本の必読書100選」の一人当たりの読書冊数

冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数
1	2	17	5	32	3
3	2	18	2	33	1
5	1	19	7	34	1
6	1	20	5	35	1
7	1	21	3	36	4
8	4	22	4	38	1
9	4	23	3	39	1
10	3	24	5	40	1
11	2	25	3	41	1
12	6	26	6	42	1
13	6	27	2	48	1
14	5	28	1	49	1
15	5	30	1	53	1
16	7	31	1		

表21のとおり、「絵本の必読書100選」のうち、一番多く読んだ短期大学生でも53冊である。20冊以下は、68人(58%)であり、平均は19.7冊と20冊にも満たない。将来、保育者や教育者になる短期大学生にとって、読み聞かせや国語の時間での読書活動は必須である。多様な絵本を読むことが求められる。

5 調査から見た今後の展望

これらのことから、短期大学生は、絵本の魅力を感じており、好きな絵本も意識しているが、以下のような課題が多く見られた。第一に、成長過程から見ると、保育園・幼稚園期には、家族から薦められた絵本が少ない。絵本を小学校中学年以降読まなくなっている。小学校期や中学校期では多様な読書活動を行っていない。第二に、読書傾向から見ると、絵本作家やシリーズにこだわって読んだ経験が少なく、絵本のジャンルに偏りがある。実際に、「絵本の必読書100選」を手がかりに実態調査をすると、それらの絵本を読んでいない。特に課題となるのは、図鑑や科学読み物等の読書経験が少ないことなどがわかった。

保育者や教育者志望の短期大学生に対して、多様なジャンルの絵本を読み、同時に多様な読書活動を体験することを求める必要がある。多様なジャンルの絵本を紹介したり、目的を持った読み方として多様な読み方（作者にこだわって読む、シリーズにこだわって読む、作家にこだわって読むなど）を経験したりするなどによって、絵本の魅力を伝えていく重要性に気付かせるようにしたい。

6 註

- * 1) 絵本専門士委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）が大学等と連携し、絵本の指導者の養成を目的とした資格。
- * 2) Webベースの学習管理システムの一つ。
- * 3) 株式会社トーハンが累計100万部以上発行された絵本を紹介したもの。

7 引用文献

- 1) 柳田邦男『大人が絵本に涙する時』, 平凡社, 2006
- 2) 瀬田貞二『絵本論』, 福音館書店, 1985
- 3) 厚生労働省『保育所保育指針』, フレーベル館, 平成29年3月
- 4) 文部科学省『幼稚園要領』, フレーベル館, 平成29年3月31日
- 5) 文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』, フレーベル館, 平成29年3月31日
- 6) 文部科学省『小学校指導要領』, 東洋館, 平成30年
- 7) 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』,

東洋館, 平成30年

- 8) 全国学校図書館協議会「第65回学校読書調査」・毎日新聞社, 2019
- 9) 茨木市立図書館「令和元年度子ども読書活動に関するアンケート調査」, 令和元年
- 10) 「中央教育審議会答申」文部科学省, 平成28年
- 11) 出村由利子「幼児教育学科学生の子ども時代に読んだお気に入り絵本」『旭川大学短期大学部紀要50』, 2020, pp91～100
- 12) 佐野友恵「保育者志望学生の絵本体験に関する研究」『教育学研究論集13』, 2013, pp17～24
- 13) 佐野, 同上
- 14) 中山美佐「絵本の力：学生アンケートからの一考察」『樟蔭教職研究』, 2018, pp35～42

8 参考文献

- 1) 柳田邦男『人生の1冊の絵本』, 岩波書店, 2020
- 2) 脇明子『読む力は生きる力』, 岩波書店, 2005
- 3) 松岡享子『えほんのせかい こどものせかい』, 日本エディタースクール出版社, 1987